

# 武蔵大学・大学同窓会共催 武蔵大学 第64回土曜講座

2023年

受講料  
無料

7月1日(土) 14時~16時  
8号館7階 8702教室

## 第1部 生活と創造・地方と東京

~私が無意識に握っていたもの~

守安 久二子 (第32回人文学部日本文化学科卒、劇作家)

『草の家』で第1回TOON戯曲賞大賞・観客賞受賞

『鮭なら死んでるひよこたち』で第21回AAF戯曲賞(愛知県芸術劇場主催)大賞受賞

若く幼い頃の感覚ほど嘘がないものはないと思います。まっさらな身体から沸きあがった感情や衝動の根っこに本当の自分があるように感じるからです。年を重ね色んなことを覚え、色んなことを忘れました。書いたり、表現することへの憧れも長いこと忘れていました。私に戯曲を書かせてくれたのは、余裕のない日々にと降りて来た幼児性だと思います。子供の頃から、不思議と体の中に残り続けていた小さい小さい渦巻を、捨てずに生きてきてよかったと思いました。評価して頂いた二つの作品の紹介と、私がこの歳で戯曲を書くことになった経緯等をお伝えしながら人生100年時代を途方に暮れずに乗り切る術を皆さんと探ることが出来たらと思っています。

## 第2部 台頭する女性指揮者たち~当世音楽事情異聞~

光野 正幸 (本学名誉教授)

今年5月に日本でもロードショー公開された映画『TAR/ター』(トッド・フィールド監督)でケイト・ブランシェットが演じるヒロインは、「アメリカの5大オーケストラで指揮者を務めた後、ベルリン・フィルの首席指揮者に就任、7年を経た今も変わらず活躍」している、という設定になっていました。現実にはこんな指揮者は(男女を問わず)存在しませんし、今後も現われることはないでしょう。しかしそれでも、ジェンダーフリーが叫ばれる現代においては、国際的に第一線で活躍する女性指揮者がめざましい勢いで増えつつあるように思えます。好例として沖澤のどか(1987年生まれ、2023年4月より京都市交響楽団常任指揮者)とオクサーナ・リーニフ(1978年ウクライナ生まれ、2022年1月よりボローニャ市立歌劇場音楽監督)の二人を採りあげ、「現代オーケストラ事情」を論じます。

■本講座は事前予約制です。(先着申込順、6月21日(水)締切)

## 〈お申込み先〉 (株)武蔵エンタープライズ

<https://web.634.co.jp/>  
E-mail: kouza@musashi.ac.jp  
FAX: 03-5984-3787

■お問合せ先

TEL: 03-5984-3785



武蔵大学

※同窓生の方は同窓会事務局にお申込みください。  
同窓会事務局 TEL: 03-3991-8453